

2020年3月15日

## 福音書からのメッセージ

彼らは女に言った。「わたしたちが信じるのは、もうあなたが話してくれたからではない。わたしたちは自分で聞いて、この方が本当に世の救い主であると分かったからです。」(ヨハネによる福音書4章42節)

今日読まれたのは、イエス様とサマリアの女性の大変長い対話です。今日はその中でも、「渇き」という言葉に焦点を当ててみたいと思います。

まず物語の中で、最初に「渇き」を表明したのはイエス様でした。時は正午ごろです。場所はサマリア。そこには井戸がありましたが、イエス様には水を飲むすべがありません。そこにやってきたのは、サマリアの女性でした。「水を飲ませてください」、そのようにイエス様は、水をくみに来たサマリアの女性に言葉を掛けます。イエス様は肉体的な渇きをいやすために、サマリアの女性に「水を飲ませてください」と声を掛けられたようです。しかしこの時代、違う民族の人に、そして知らない異性に話しかけるということは考えられないことでした。

イエス様は、民族と性別という二つの壁を乗り越えられて水を求められた。それだけでもすごいことだと思います。しかしこのイエス様の行動には、もっと大きなものがあると思います。

わたしたちはこうして礼拝を守っております。そこにはわたしたちのどのような思いがあるのでしょうか。その一つは、「渇き」ではないかと思います。日々の「渇き」をいやしたい。日常の様々なことの中に生じる「渇き」を何とかしてほしい。わたしも毎週、様々な思いにさいなまれます。喜びもあれば悲しみもある。痛みを背負うことも、苦しくてたまらないときも、でもそんな思いの中で、聖書のみ言葉を聞き、共



に賛美することでまた、明日からの一週間に向けて歩き出す。その繰り返しです。

イエス様はサマリアの女性に「水を飲ませてください」と願いました。この言葉だけを見ると、渇いているのはイエス様であり、渇きをいやすのは女性のように思います。ところが物語が進んでいくにつれ、その立場は逆転していきます。「主よ、渇くことがないように、また、ここにくみに来なくてもいいように、その水をください」。この女

性の言葉を聞く限り、本当に渇いているのは女性であり、渇きをいやすのはイエス様だということになります。

イエス様はこの彼女の心を見抜いていたのではないのでしょうか。今、目の前に、渇いている女性がいる。二人の間には、本当は壁があったはずですが。しかしイエス様の目には、そんな壁なんてないに等しいのです。

そのイエス様が、わたしたちの元にも来て下さっているのです。渇き、嘆き、痛み、恐れているわたしたちの元に来て、声を掛けてくださいます。

「わたしが与える水を飲む者は決して渇かない。わたしが与える水はその人の内で泉となり、永遠の命に至る水がわき出る」。それがわたしたちに対する約束です。

### 桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>